

危うし日本

やまとなでしこ

立ち上がれ日本女性

一、このままでは餓死地獄が来る

冒頭から空恐ろしい話になりますが、国の財政破綻が、いよいよ現実化してきそうです。

国と地方合わせた「官」全体の借金総額は、約一千兆円と発表されています。しかしそれは、かつての「大、本、営、発、表」と同じで全く信用できません。実際にはその二、三割増、一千二百〜三百兆円ぐらいはあると覚悟するべきでしょう。

対して「民」の預貯金総額が約一千四百兆円あると言われていますが、既にその大半を「官」が散財してしまっており、日本国全体としての差し引き残高は、どう楽観的に見ても高々二百兆円ほどしかありません。従って、このまま「官」の超無責任行政を放任し続ければ、日本の一文無し国家への転落は、火を見るよりも明らかなのです。

しかし万一そんなことになれば、国難どころの騒ぎではありません。文字通り亡国です。何千万人もが餓死せざるを得なくなるからです。

二、古事記が予言する日本の再生

この小論文の本当の主題は環境問題です。

貴女は「人生とは何か」と「人間の本当の幸せ

から抜け出し、人間本来の自然な生き方に立ち戻るのです。この星地球を、元通りの永遠なる「エデンの楽園」に復元してゆくためにです。



富岡鉄斎作「天照神楽図 (部分)」

三、日本女性が拓く地球の未来

先述の「天の岩戸開き物語」ですが、もう少し詳しく説明します。実は、アメノウズメという一人の女性が、非常に重要な役割を果たすのです。岩戸前で一心不乱に神楽を舞い、岩戸開きの直接的きっかけを作ります。

具体的には、にぎやかな外の様子を不思議に思った天照大神が、岩戸を細めに開けてアメノウズメにその訳を尋ねます。そして「真実」が究明されたお祝いをしているのだと知り、それはめでたいと大喜びして岩戸から出てくるのです。

さてそこで今日です。「真実」は、私播磨屋助次郎が既に究明済みです。その具体的内容は、電子ブック『真実』をお読みください。

後は、心根やさしい日本女性すなわち現代のアメノウズメたちが、その喜びを素直に、天皇に伝えてくださればよいだけなのです。

とは何か」の正解をご存じですか。

ご存じないなら、拙著『真実』を読んで頂いたらよいのですが、ひよっとして「人生は人間同士の優劣競争の場」「幸せはその競争に勝って手に入れるもの」と盲信されてはいませんか。

実は、環境問題を初めとして現代社会に蔓延するありとあらゆる難題や難問の全ては、その「盲信」こそが根本的原因があるのです。

ところで、かの古事記の「天の岩戸開き物語」をご存じでしょうか。天照大神が天の岩戸に隠れてしまおうというあの話です。

実はあれは、遠い神代の日本人が直感した、未来の日本への予言話なのです。真剣に深読みしさえすれば、昭和の大敗戦も平成の国家破産も、全部きちんと予言されているのです。

話の概要は——国民の全てが、そして最後には国の中心者天照大神（今日の天皇）までもが、先述の「盲信」に取り付かれて（岩戸隠れは、この事実の比喩的表現）世の中全体が大混乱に陥ってしまう。しかしその大混乱の中から、国民の一人が辛くも「盲信」から抜け出し「真実」に目覚めて天照大神を岩戸隠れから解放する。その結果、世の中に元通りの美しい平安がよみがえる——ざっとこんな話です。

どうですか。素晴らしい予言でしょう。

そうです。何はともあれまず天皇に、「盲信」から脱却してもらわねばならないのです。

そしてその善導の下に、日本人全体が「盲信」

四、皇后様に嘆願Eメールを



時間がもう残りわずかしかありません。餓死地獄を招きさせないために、せめて百兆円ぐらいは残しておきたいからです。百兆円あれば米が約十億トン買え、日本人全員が何と五十年間も安心して食いつないでいけるのです。

そこで最後に、この小論文を読んで心ときめかしておられる心美しい、また心若々しい貴女に、一つ大切なお願いがあります。

皇后様に、嘆願Eメールを送って頂きたいのです。これら一連の真実を、皇后様直々に天皇陛下にお伝え賜れるようになります。

メール本文に皇后様宛てを明記すれば、アドレスは宮内庁のそれで全く問題ありません。

なお、宮内庁も単なる一行政機関です。不安や心配など一切ご無用です。自宅に居ながら、何の不安も心配もなしに、救世救国の大仕事に貴女にもできるのです。是非ともご奉仕ください。

平成二十三年 初冬 播磨屋助次郎 謹言



播磨屋助次郎のプロフィールは裏表紙にあります。